

# 第2次うるま市観光振興ビジョン改定版【概要版】

【令和5（2023）年度～令和9（2027）年度】

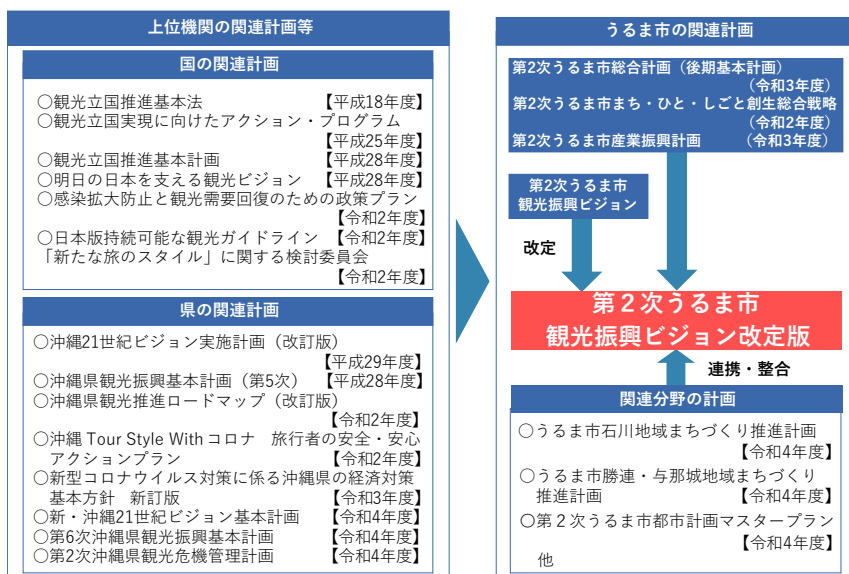
## （1）第2次うるま市観光振興ビジョン改定にあたって

本市の観光施策については、平成29（2017）年3月に、「まちの活力を生み出す産業づくり」を具体化し、観光振興による活気に満ちた経済活動の展開を目指して、今後10年間の計画期間とする『第2次うるま市観光振興ビジョン』を策定し、各種施策を展開してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により「社会情勢の変化」に加え、「関係部署、関係団体の体制の変化」、「関係部署、関係団体と連携した施策の強化」、「数値目標達成に向けた取組施策の見直しやターゲット設定等の強化」を踏まえ、今後5年を計画期間とする「第2次うるま市観光振興ビジョン改定版（以下、本ビジョンと称す）」を策定いたしました。

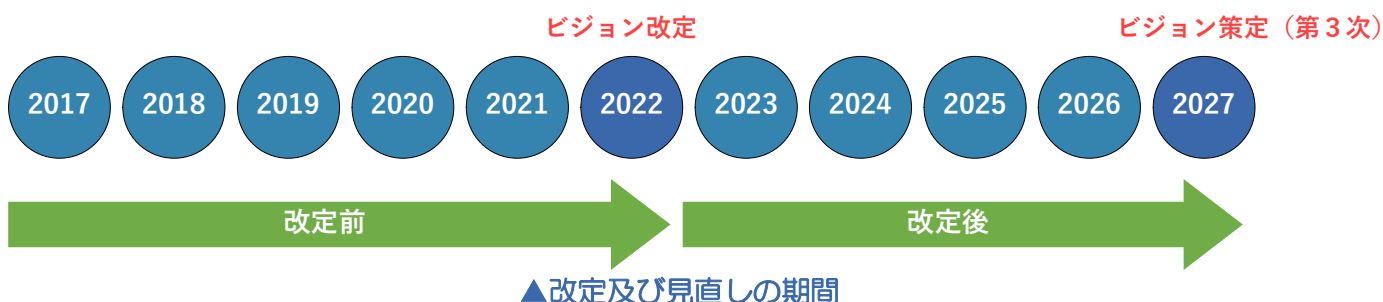
## （2）観光振興ビジョンの位置付け

本ビジョンは、上位計画となる「第2次うるま市総合計画（後期基本計画）」（令和3（2021）年度策定）、「第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2（2020）年度策定）」、「第2次うるま市産業振興計画（令和3（2021）年度策定）」において、観光関連施策の方向性や目標値との整合を図ります。



## （3）観光振興ビジョンの計画期間

本ビジョンは、令和4（2022）年度に見直し・改定を行い、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間の計画期間とします。



## (4) うるま市観光のこれからの取り組み課題

近年のうるま市の観光の実態や整備状況等を踏まえ、さらなる観光振興の実現に向けて、今後の取り組むべき5つの課題を抽出しました。

<p>■観光資源のブランディング、プロモーションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海中道路から島しょ地域、世界遺産勝連城跡など認知度が高い資源がある一方、統一イメージが明確に定められておらず、他の自治体よりも認知度は低いことが想定されます。</li> <li>・ブランド化を図るとともに、観光誘客のターゲットを想定したメディア広報を図っていくことが必要です。</li> </ul>	<p>■豊かな自然など有形・無形の地域資源の利活用と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産勝連城跡、闘牛、エイサー、獅子舞、ハーリー、肝高の阿麻和利などの独自の文化や歴史、海中道路や島しょ地域における景観、もずく等の食材といった有形・無形の地域資源について、保全を行いながら、体験型観光の提供や商品化などによる活用を進めていくことが重要です。</li> </ul>
<p>■まちなみづくりと公民連携による観光拠点の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然景観や景観資源、沖縄らしいまちなみの継続的な保全と整備の推進が重要です。</li> <li>・勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺などの整備を進めることで観光拠点の機能強化による魅力創出が重要です。</li> </ul>	<p>■滞在型観光の推進による観光客数拡大・消費単価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通過型観光から滞在型観光への推進が重要な課題です。</li> <li>・東海岸魅力強化としてのサンライズ観光、ワーケーションなどの新たな観点での観光により長時間滞在、宿泊者向けの体験プログラムの充実が重要です。</li> </ul>
<p>■関係者間の連携、受入体制の整備、市内各地域やセグメント別の観光テーマの設定</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内観光部局と観光物産協会が連携を図りながら、観光振興の方向性や受入体制の整備が重要です。</li> <li>・地域の歴史・文化などによる観光のゾーニングを図りながら、各地域のテーマ設定を行うとともにセグメント別の特性を把握し、本ビジョンの施策を検討していくことが重要です。</li> </ul>	

## (5) 基本理念

うるま市に住んでいる人々が、他の地域にはない自然、風土、歴史・文化を持っていることを知り、愛着と誇りを持つことが大切です。自分たちの地域を他の人に見てもらいたい、紹介したいという気持ちの高まりは、情報発信力の強さに繋がり、守り育てたい、もっと磨きたいという気持ちは、うるま市の魅力向上に繋がっていきます。

うるま市の観光まちづくりは、「住んでよし！自慢のまちをつくり、訪れてよし！自然・歴史・文化で感動を与え、受け入れてよし！明るくおもてなす～自慢のまちをつくり、感動を与える“うるま”～」を基本理念として進めていきます。



## (6) 5年間の成長目標

本ビジョンは平成 29（2017）年に策定された計画の改定版であることから、本ビジョンに位置付けられている数値目標の検証を行い、新たに令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の「5年間の成長目標」を設定しました。

本ビジョンでは観光振興の基本となる①“経済”の視点に加え、②“観光客、③“社会（市民・事業者）”の観点で目指すべき目標値（KGI）を設定するとともに、後述する基本方針における重要業績指標（KPI）を位置づけています。

### <目標値（KGI）>

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)
経済	指標1 主要観光施設の入場者数	135,583人 (令和3年度)	550,000人
経済	指標2 一人あたり市内観光消費額（県外観光客）	土産：3,340円 飲食：5,354円 (令和4年度調査)	土産：4,000円 飲食：6,000円
観光客	指標3 うるま市観光の満足度 (県外観光客)	土産：56.0% 飲食：70.0% (令和4年度調査)	土産：66.5% 飲食：76.0%
社会	指標4 市民の幸福度	64.0% (令和4年度調査)	74.0%
社会	指標5 事業者の期待度	81.0% (令和4年度調査)	86.0%

### <重要業績指標（KPI）>

区分	指標	現状値	数値目標 (5年後)
方針1	SNS フォロワー数、市 YouTube の登録数	11,003件 (令和5年2月)	23,000件
方針2	リピーター率	74.0% (令和4年度調査)	70.0%
方針3	プロスポーツ等の誘致による経済波及効果	27,128千円 (令和元年)	65,108千円
方針3	教育旅行数等の誘致数	210件 (令和元年)	216件
方針3	宿泊日数	0.6泊 (令和4年度調査)	0.8泊
方針4	来訪割合	42.2% (令和4年度調査)	50.0%



# (7) 基本方針及び今後5年間で取り組むべき施策 (令和5 (2023) 年度~令和9 (2027) 年度)

うるま市における、令和5 (2023) 年度から令和9 (2027) 年度までの観光振興の実現に向けた、5つの基本方針、13の基本施策、35の展開施策の展開図を以下に示します。



凡例：基本施策 (赤枠)：重要プロジェクト (2) 展開施策 (青枠・☆)：重点施策 (10)

## (7) - 1 重要プロジェクト（基本施策）

令和5（2023）年度～令和9（2027）年の5年で、より重点的に取り組むべき基本施策を重要プロジェクト（下表）として位置付けています。5年間の成長目標の達成に向け、うるま市だけでなく、各主体の役割分担及び市民協働と公民連携を図りながら、一丸になり以下のプロジェクトを推進していきます。

基本施策 1.2 地域資源の保全と活用による魅力向上	基本施策 2.2 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出
◆ <b>展開施策 3</b> 世界遺産勝連城跡をはじめとした歴史資源の保全と活用による魅力向上 ⇒勝連城跡周辺をはじめとした観光客の受入環境の整備 ⇒歴史的価値・文化的価値の保全	◆ <b>展開施策 8</b> 世界遺産勝連城跡周辺整備の推進 ⇒消費と滞在の観光拠点としての魅力創出（勝連城跡周辺整備） ⇒PFI手法を採用した公民連携による整備
◆ <b>展開施策 4</b> 闘牛などのうるまらしい伝統文化資源の保全と活用による魅力向上 ⇒「闘牛振興協議会（仮称）」の設立を検討 ⇒「闘牛のまち・うるま」の推進	◆ <b>展開施策 9</b> 海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出 ⇒「ロードパーク活性化基本計画の策定」 ⇒公民連携による民間活力を導入した整備を推進
◆ <b>展開施策 5</b> 島しょ地域を中心とした保全と活用による魅力向上 ⇒島しょ地域を中心とした、地域関係者や観光関連事業者と連携 ⇒適切な観光客の受入れを目指す観光地マネジメント、レスポンス・シンプルツーリズムの推進	◆ <b>展開施策 10</b> 石川IC周辺の交流拠点形成 ⇒ゲートウェイとしての立地を生かした交流拠点の形成 ⇒公民連携手法による事業化を視野に石川IC周辺整備を推進
◆ <b>展開施策 6</b> 農水産資源を活かした食の魅力づくり ⇒うるマルシェ等の市内観光拠点や物産展やイベント、アンテナショップ等にて積極的にプロモーションし、地産地消の取組を推進	◆ <b>展開施策 11</b> 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進 ⇒旧与那城庁舎周辺はサッカー、陸上競技場等を中心としたスポーツ合宿・キャンプの受入拠点 ⇒県道 37 号線沿道では、景観の改善、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進

## (7) - 2 重点施策（展開施策）

基本方針毎に設定した重要業績指標（KPI）の達成に向け、以下の展開施策（10 施策）を重点施策として位置づけており、より重点的に施策を推進していきます。

◆ <b>展開施策 1</b> コンセプト設定と戦略的なプロモーションの展開 ⇒「感動」をキーワードに観光プロモーションコンセプトを設定 ⇒統一イメージの形成、シティプロモーションの実施	◆ <b>展開施策 23</b> 観光消費の拡大に向けた商品開発 ⇒「つむぐうるま」をコンセプトとして効果的な商品開発又は既存商品のブラッシュアップ、リブランディング ⇒「基幹商品」、「高付加価値化」となる商品開発の支援
◆ <b>展開施策 12</b> 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと開発 ⇒観光闘牛など地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと新たな開発	◆ <b>展開施策 24</b> 関連団体との連携強化による事業者間連携基盤の構築 ⇒観光物産協会によるプロモーション・情報発信 ⇒民間活力の導入によるイベント・施設運営
◆ <b>展開施策 13</b> ふるさと納税の観光関連返礼品の拡充と推進 ⇒個人向けの特産品等のPR強化や企業版ふるさと納税の実施 ⇒電子旅行商品券や観光体験商品等の観光関連返礼品の開発、滞在型観光の推進、関係人口の拡大	◆ <b>展開施策 26</b> 恩納村エリアからの誘客連携 ⇒宿泊機能の強みを持つ恩納村と闘牛などの魅力ある資源を持つうるま市との連携 ⇒恩納村宿泊客がうるま市の観光資源で楽しめる取り組みの推進
◆ <b>展開施策 16</b> スポーツコンベンションの推進 ⇒うるま市スポーツコンベンション推進協議会を中心とした積極的な誘致活動 ⇒プロスポーツチームを受け入れた際の地域経済への波及効果を最大限高める取組み	◆ <b>展開施策 30</b> 多様な観光客の受入体制整備によるユニバーサルツーリズムの推進 ⇒案内板やパンフレット等の多言語化、Wi-Fi 整備、キャッシュレス化、食の提供 ⇒認知度向上に向けた SNS 等による多言語での情報発信
◆ <b>展開施策 17</b> 教育旅行の推進 ⇒民泊連携組織や各種体験事業者、文化・芸能団体などとも連携 ⇒教育旅行プログラムの造成と商品化、販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化	◆ <b>展開施策 35</b> シビックプライドとおもてなしの醸成 ⇒市民イベントにおいて特産品や闘牛等に触れる機会の創出 ⇒あまわりパーク、東照間商業施設等の観光拠点やマリンレジャー等の観光プログラムを市民が日常的に体験する機会の創出

## (8) 地域別の取組方針

うるま市は地域ごとに地域資源や誘客施設を有しており、特性に応じた取組を進めていくことが重要です。以下では「石川地域」、「具志川地域」、「勝連・与那城地域」の3地域の特性と取組方針を整理しました。



### 石川地域

～闘牛から自然体験、夜のお酒や食事まで楽しめる  
ゲートウェイ～

#### ■主な地域資源

- ・闘牛、石川岳、伊波メンサー、石川多目的ドーム など

#### ■主な取組方針

- ・「闘牛のまち・うるま」の推進
- ・石川IC周辺の交流拠点形成
- ・隣接する恩納村エリアからの誘客連携

### 石川地域

### 具志川地域

### 与那城地域

### 勝連地域

### 具志川地域

～食とスポーツコンベンションを軸  
とした交流エリア～

#### ■主な地域資源

- ・安慶名城跡、野島の森自然公園、宇堅ビーチ、うるマルシェ、中城湾港、具志川野球場 など

#### ■主な取組方針

- ・うるマルシェと連携した食の魅力向上
- ・クルーズ船舶受入れに向けた対応
- ・野球やサッカー等のプロスポーツキャンプの誘致

### 勝連・与那城地域

～勝連城跡や海中道路、島しょ地域などの保全と活  
用の両輪による誘客エリア～

#### ■主な地域資源

- ・勝連城跡、仲原遺跡、海中道路、島々の景色、もずく、あまわりパーク、東照間商業等施設、あやはし館 など

#### ■主な取組方針

- ・勝連城跡及びその周辺地域の保全と活用による魅力向上
- ・島しょ地域における観光地マネジメントの推進
- ・あやはし館とロードパークの機能強化と魅力創出

## (9) セグメント別の取組方針

本ビジョンでは各セグメントに対して効果的な誘客や受入を展開していきます。

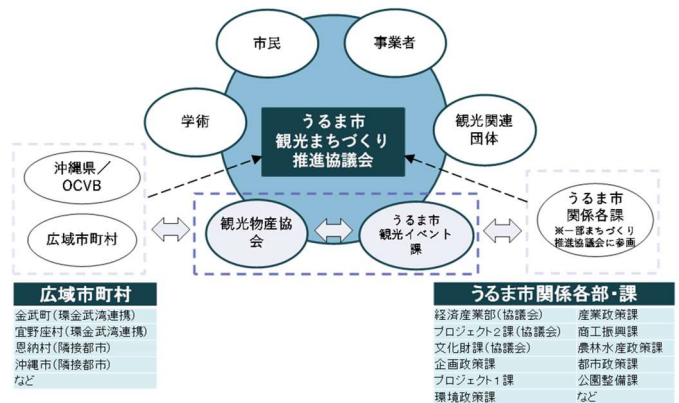
セグメントは大きくは県外観光客、県内観光客、外国人観光客にて捉えます。県外客・県内客については、アンケート結果等より把握した世代ごとの目的や訪問先の特性から取組を展開していきます。

セグメント	特性・方針
1. 県外観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>観光地巡りを一番の目的</b>としており、次いで<b>沖縄料理を楽しむ、保養・休養、海水浴・マリンレジャー</b>が続きます。</li> <li>■ うるま市来訪にあたっての<b>目的地は海中道路が最も多く</b>、次いで<b>ピオスの丘、勝連城跡、果報バンタ</b>が多いです。離島やうるマルシェへの訪問は県内客に比べると、低い割合となっています。</li> <li>■ 世代によって、訪れるシーズンや訪問目的が異なるため、<b>世代ごとのニーズに応じた対応が重要</b>と考えられます。</li> </ul>
2. 県内観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幅広い世代が主に<b>ドライブとショッピング</b>を目的としており、<b>海中道路のほか、うるマルシェ</b>に訪れています。</li> <li>■ 観光地めぐりとしてうるま市に訪れている意識は低いですが<b>全ての季節に訪れることが可能</b>であり、<b>リピーターとして位置づけニーズを把握</b>していくことが重要です。</li> <li>■ 立ち寄りや消費の多い、<b>海中道路やうるマルシェを起点として普段訪れない観光地への周遊を促す</b>ことが効果的と考えられます。</li> </ul>
3. 外国人観光客	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 外国人観光客は、沖縄県に来訪の多い、<b>台湾、韓国、香港、中国</b>、その他として<b>欧米豪、東南アジア</b>など、地域別に把握していくことが重要と考えられます。</li> <li>■ <b>個人旅行の割合も増えており、リピーター層を巻き込みながら</b>、SNS等による継続的な情報発信が重要と考えられます。</li> <li>■ 現状、来訪が少ない地域でも<b>潜在的にボリュームの大きいセグメントについては継続的にリーチをしていくことが重要</b>と考えられます。</li> <li>■ レンタカーを利用できない、もしくは回避したい層も一定層いるため、<b>公共交通等による二次交通の充実が重要</b>と考えられます。</li> </ul>
4. 目的特化型のセグメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般的な観光地巡りだけではなく、<b>世界遺産等の史跡巡りや闘牛鑑賞、海中道路への訪問や島しょ地域巡り、サイクリング、プロスポーツのキャンプ見学等</b>の目的に特化した方もセグメントとして位置づけ注視していきます。</li> <li>■ 例えば、闘牛鑑賞のセグメントに対しては、<b>イベントやツアーをきっかけに訪れた方に、SNS等を通じて継続的な情報発信</b>を行うことが重要と考えられます。</li> <li>■ その他、プロスポーツのキャンプ見学のセグメントについては、<b>キャンプ見学だけではなく、その前後に市内滞在や市内周遊してもらえるような仕掛けづくり</b>が効果的と考えられます。</li> </ul>

## (10) 取組の推進体制及び計画管理

「うるま市観光イベント課」と「(一社)うるま市観光物産協会」が中心となり、様々な体験メニューの提供、イベントの開催、民泊、スポーツ合宿の誘致等に取り組みます。加えて、うるマルシェ、東照間商業等施設、宿泊施設、飲食店などの「観光関連の事業者」についても、それぞれが誘客等の取り組みを行います。

本ビジョンでは、特に、統一イメージの形成とブランド構築を重点的に実施することから、「(一社)うるま市観光物産協会」が中心となり、マーケティング、情報発信、観光推進体制の構築といった一連の取り組みを、統合された戦略に基づいて展開することで、より効果的な取り組みに繋がっていきます。



各主体	役割
観光まちづくり推進協議会	①うるま市における観光振興の中心組織として、うるま市観光振興ビジョンに基づく各種施策の推進 ②うるま市観光振興ビジョンの進捗確認 ③その他、観光振興に関する各種協議の実施
市民	①観光に関する関心と理解 ②観光客に対する、おもてなしの心の醸成 ③地域資源の掘り起しと活用に対する、積極的な参画 ④観光に係わる取り組みへの、積極的な参加
事業者	①各事業者の、観光に関わる本業の積極的な展開 ②他の主体との連携による事業展開の可能性の検討及び実行 ③イベントをはじめとした市内で展開される観光関連事業に対する積極的な参加 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
学術	①観光振興への助言（協力・支援/助言）
観光関連団体 (うるま市商工会、漁協、JA、文化関係団体等)	①各団体の課題解決に、観光を活用することの検討 ②観光関連事業者等、他主体との協力及び連携 ③特産品や体験メニュー等の開発・提供、それを実施する事業者との連携・協力 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
(一社)うるま市観光物産協会	①観光振興ビジョンの目標達成に向けた情報発信の実施 ②他地域の観光協会との連携による観光振興の取り組み、情報交換及び情報発信の実施 ③各主体の取り組みや、うるま市各課の取り組みとの連携 ④入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データ収集への協力
うるま市観光イベント課	①うるま市における観光振興の中心組織として、方針と計画の策定、目標設定、進捗管理、計画の見直し実施 ②市内イベントの実施/支援 ③観光振興に要する組織横断的取り組みの検討と実行、各課の事業との連携 ④各主体への助成・補助制度活用等の検討、人的支援、活動場所や情報の提供 ⑤県内の他自治体との連携事業等の検討と実施、情報交換等の推進 ⑥入込客数、消費額等、観光の実態や動向に関わる基礎データの収集・整理・報告
県/OCVB	①県行政とうるま市間での情報共有と協議/連携して情報発信や受入環境の整備、プロモーション ②県全体の観光地域づくり法人（広域連携DMO）として、関係省庁、地域（行政・観光協会・DMO）、観光業界及び観光関連団体の紹介/取組の助成等
うるま市各関係課	①観光振興ビジョンに位置付けている施策の推進/進捗報告



### 第2次うるま市観光振興ビジョン改定版

発行日 / 令和5（2023）年3月

発行 / うるま市

編集 / 経済産業部 観光振興課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

TEL：098-923-7612

URL：https://www.city.uruma.lg.jp